



CLLクラブ会報2月号

Vol.103 発行日 2012年2月1日
チェンマイロングステイライフの会
ナコンピンコンド1階
Tel. 053-404155
ホームページ <http://cll-thaijp.net>
監修:世話人会 発行:広報部
本誌からの無断転用をお断りします

新世話人代表の挨拶

「チェンマイ生活を楽しく」

木村 正勝

この度、再度世話人代表をお引き受けすることになりました木村正勝と申します。皆様のご期待に添えるかどうか不安ではありますが、できる限りの努力をするつもりですのでよろしくお願い致します。

最近日本はちょっとおかしいと言う話を時々聞きます。日本のお家芸であった数学オリンピックも、今ではタイの後塵を拝すようになったと聞いたことがあります。タイの人はのんびりしていていい加減だと思っている人が多いと思いますが、どっこい一部の人の努力は大変なものです。特に女の子は勤勉です。能力の上下の差はかなりあります。日本では上下の差が非常に小さい珍しい社会です。全員参加の競争社会の弊害で、親に心のゆとりが無く、競争原理を否定する、「ゆとり教育」というのも一時流行ったようです。折角伸びる能力のある子供の足を引っ張り、平均化する意味は何なんでしょうか？子供は必ず何か一つ他人より優れたものを持っているもので、それを見つけてあげるのが親の義務です。それを怠って全員が同じ土俵で競争するので無理が生じます。成績はビリでも人より秀でたものがあれば、その子の存在意義があるはずですよ。



国の発展の一番の原動力は教育にあると思います。戦後学校教育の現場で、国旗掲揚を拒否し、国歌斉唱を否定した教育が行われていた事実は反省するべきです。戦争でお国の為と言って死んでいった子供を思うと、国旗掲揚を拒否し、国歌斉唱を否定したい親の気持ちは理解できます。「滅私奉公」の標語の下、たくさんの若者の命が失われました。しかしどこに自分の所属する国を否定する国民がいるでしょうか？まさに「あつものにこりて膾を吹く」の類ではないでしょうか？自分さえよければ他人はどうでも良いとの風潮が蔓延しているように思います。

タイではご存知の通り朝8時と夕方6時には国歌が流れ、買い物している人も直立し敬意を表します。映画でも演奏会でも始まる前には国王讃歌が流れ全員起立します。この光景は戦後の教育を受けてきた我々には異常に映るかもしれませんが、日本の常識は世界の非常識の典型ではないでしょうか？

「ひとりは何人のために、万人はひとりのために」組織と個人との関係を的確に表現した言葉だと思います。今回再度代表の任務を仰せつかった時に、寂しい思いをしたとお話しました。過去に一緒に会のために尽くして来てくれた方々が会を去って行ったことです。総会で決議されたことを今更蒸し返しても仕様が有りませんが、今回の規約改正は組織と個人との関係では正論ですが、リタイア後、のんびりと過ごしたい多くの会員にはちょっと厳しすぎるような気がします。現役時代の職場のように給料をもらっている立場であればまだしも、ボランティアで運営されるこの会で全員に協力を強制することの是非を再度皆様に問いたいと思っています。

会員全員が会を支えて頂けるようなら有難いことですが、そう言う気がない人を全て切り捨てるのはちょっと優しくない気がします。CLL5周年の式典では次のようなお話させていただきました。「自己に厳しく他人に優しく」が理想で、その反対は最低です。確か日本では「自己に厳しく他人に厳しく」が次で「自己に優しく他人に優しく」が3番目だったように思います。しかしタイで暮らすには2・3番を逆転し、自己に優しくても良いので他人に優しくするほうが大切ではないかと。今回世話人を引き受ける人が居ないので規約を改正したのですが、会員の25%ぐらいの方が会を何らかの形で支えていただける気持ちがあれば、会は運営可能だと思います。私はそういう方々がいらっしゃると信じています。会の目的で、前はタイの人々との交流をテーマに活動してきましたが、今回は原点に戻り、会員間の親睦を第一のテーマとして行きたいと思っています。自分の意見を他人に押し付けるのではなく、他人の意見を良く聴くことを心がけます。他人の意見を聴くことは出来そうで、なかなか出来ないものです。なぜならば聴く人は話し手の意見でなく、話したことを自分の価値観のフィルターにかけて変換してしまうからです。タイに住んで、日本の習慣を押し付けるのではなく、タイの文化を理解することが、ここに住まわせてもらっている我々のマナーではないでしょうか？

1月7日(土) 定例世話人会

1. 会員の動向 個人会員138名、法人 10 社
2. 新年祝賀例会内容について。
3. 会員総会資料の準備について。
4. 文化部同好会活動の部外者参加の是非について。

《情報コーナー》

《第一例会》1月7日(土)

ミニ例会後、お神酒・お餅も用意された新年祝賀例会がおごそかに執り行われた。

国歌斉唱、富谷泰生顧問の乾杯発声、在チェンマイ日本国総領事の柴田和夫様の来賓祝辞と式次第により進められた。昨年は日タイにとり自然災害に苦しめられた一年ではあったが、共に助け合う精神で両国民の「絆」がより強固になったと挨拶された。

《第二例会》1月21日(土)



CLL クラブに貢献した功労者として、木村實氏、富谷泰生氏、チャールズ・バーク氏の三人の会員に庄司世話人代表より表彰状が贈られた。

また、山岳の恵まれない子供たちへの義援金として CLL 会員の山本敏幸氏が運営している「サーンファンサンティパープ財団」に2,547バーツが手渡された。

《ラムウォン盆踊り》

1月29日(日)、花博のジャパン・ウィークの最終日として三人の王様像広場で「ラムウォン盆踊り」のイベントが行われました。日本からの演者が披露した、和太鼓・津軽三味線・横笛は素晴らしかったです。また、炭坑節・東京音頭を日本人とタイ人が一緒に輪になって踊り、楽しい文化交流が図れました。



《タイ国民の7割強「生活水準に満足」》

タイ国立開発行政研究院(NIDA)が1月16—18日にタイ全国で行ったアンケート調査で、「生活水準に満足」との回答は回答者全体(1274人)の46・2%だった。「やや満足」を合わせた割合は74%。「不満」は25・4%だった。地域別では、経済発展がタイで最も遅れているとされる東北部で「満足」の割合が55・1%と最も高く、「不満」が17・6%と最も低かった。「不満」が最も多かったのは北部で32・9%。

「過去5年で生活水準が向上した」との回答は全体の27・8%で、「変わらない」が36・1%、「悪化した」が34・5%だった。(ニュースクリップ)

1月21日(土) 定例世話人会

1. 会員の動向 個人会員141名、法人 10 社
2. 会員総会議案の最終確認。
3. 同好会への部外者の参加を否とする世話人会見解の確認。
4. CLLクラブへの功労者に対する会員の表彰について。

【2月のタイ国休祭日とイベント】

・2月の休・祭日はありません。

【第36回チェンマイ花祭りの概要】

チェンマイ花祭りは 2012 年に 36 回目を迎え、2/3(金)～2/5(日)の 3 日間チェンマイ市内にて開催されます。チェンマイでは最も人気が高いと言われているお祭りで、花々が満開になることにあわせて行われるとても色鮮やかなお祭りです。

メインイベントは、2/4(土)に行われる「フロートパレード」です。生花で飾られた華やかなフロートをグループ毎に作り、どのグループが一番創造的で美しく、かつ伝統的かなどを競い合います。その完成度はとても高く、フロートに乗っている美女たちも美しく、見る者を圧倒するほど。



パレードの他にも、メイン会場では OTOP(一村一品)のお店、フードフェア、ミュージックショーなどが行われ、タイらしいお店がたくさん立ち並びます。通りを見て歩くだけでも楽しめる華やかなお祭りです。

■花祭り開催日時:2012年2月3日(金)～5日(日)

■開催場所:チェンマイ(スワン・ブアクハート)

■内容:フロートパレード、フロートコンテスト、ミスフラワーコンテスト、ミュージックショー、フードフェア他

《ピンクヘルメット隊の出勤》

タイ警察は同国初という女性警官だけからなる交通警察隊「ピンクヘルメット隊」を組織し、23日、結隊式を行った。

交通警察のイメージ向上が狙いで、初代隊員は18人。23日から早速、春節(中国の旧正月)で混み合うバンコクの中華街で交通整理などを行った。(ニュースクリップ)



定期会員総会の開催

1月21日、CLL クラブの2012年度定期会員総会が開催されました。出席者数は委任状を含め総会成立条件の会員総数の過半数(72名)を上回る105名でした。

2011年度世話人代表の庄司邦忠氏が開会挨拶の後、議長に谷崎守氏を選任して、議案の審議に入りました。

前年度の活動報告、決算報告が承認された後、任期満了を迎えた世話人4名が退任、花束が贈呈されました。長い間のご尽力ありがとうございました。

代わって新たに代表と4名の世話人が就任。新年度の活動計画、収支予算は基本方針の一部修正を条件に原案通り承認され、木村代表を中心とする新体制がスタートしました。



2012年度 CLL クラブ世話人 業務分担

担当 業務	人員	世話人名	サブ世話人名
代 表	1名	木村 正勝	
副 代表	1名	加藤 進平	
事 務 局	2名	石井 重一 加藤 進平 (兼務)	
会 計	1名	林 壽男	高久 敏昭
広 報 部	2名	高久 敏昭 樋口 玲子	
業 務 部	1名	矢野 三千代	下田 紀美恵
文 化 部	1名	下田 紀美恵	大澤 米子
運 動 部	1名	大澤 米子	矢野 三千代

2012年度世話人外 (担当業務)

顧 問	1名	富谷 泰生	
監 査	1名	西宇 明男	

ヤンゴン(ミャンマー)旅行

南川 久美子

12月の初めに7泊8日でヤンゴンに行きました。

私の中でのミャンマーと言えば、タイの隣国なのに、安井昌二主演映画の「ビルマの豎琴」、アウンサンスーチーさん、カメラマン長井氏が騒乱の中の死亡、というくらいしかありませんでした。我々の行く直前にアメリカのクリントン国務長官がアウンサンスーチーさんと会った、とニュースで流れました。いよいよミャンマーの民主化が始まるのではと感じました。

チェンマイから飛行機で僅か45分でヤンゴンに到着。バンコクのような蒸し暑さでした。タクシーでホテルに向かいましたが、街灯が少なく暗い道を多くの人々が歩いています。タクシーもぎゅうぎゅう詰めバスも冷房設備はなく窓は全開でした。あまり整備されていない道路を結構なスピードで飛ばすので、クッションの効いていないシートから直接腰にひびく。車は「○○運送」「○○幼稚園」のペイントのままで、まるで40～50年前にタイムスリップしたかのような錯覚に陥りました。道すがら歩く人を眺めると、殆どの男の人はロンジー(筒状の布をウエスト前で括る)をまとい悠然と歩いている。聞くところによると下着を身につけていない方もいるとか、大層涼しげです。女の人も殆どがロンジー(ウエスト横で合わせる)にピッタリした上着で、おしゃれに着こなしています。私には体型が露わになりそうで、ダイエット後でないと思いません。また、チェンマイより暑いのに肌を出している人はあまり見かけない。肌を出しているのは観光の西欧人だけのようです。

観光は30歳代の日本語ガイドに付いてもらい、ヤンゴン中心部とヤンゴン川クルーズに出かけました。色浅黒く賢そうな目をしたビルマ族の彼はお寺で日本語を習ったようで、何を聞いても即座に明確に答えてくれ、寝釈迦と涅槃の違いも教えてくれました。何といても圧巻はシュエダゴンパゴダで、緑豊かな公園の上に燦然と輝く巨大なパゴダ(仏塔)は想像を絶するものでした。高さほぼ100mの仏塔の先は金とルビーや宝石がちりばめられていて、すべて信者たちが寄進したものと説明を受けました。貧しいであろうミャンマーでの信仰の篤さに感嘆しました。夕方になるとライトアップされ更に黄金色が増えて見えて、参拝している人々はあちこちに腰掛けて威容を眺めている。周りの何百体もの仏像に後光が射すのは素晴らしいが、一色ではなく赤青黄白が点滅している。まるでパチンコ台のようで、美意識の違いだろうか荘厳な雰囲気からは少し?と違和感を覚えました。



(巨大なシュエダゴンパゴダ)

食事は日本で働いた後帰国立派な実業家になっているミャンマー人夫婦に地元の人たちが行く店を案内してもらいました。多分あまり辛いものを選んでくれたせいでしょう。なんでも美味しく頂きました。異国で信頼できる人がいると旅は何倍も楽しくなるものです。今回の旅では仲間と行き違いになることが何度かありました。夫とは市場ではぐれ、友人たちとはタクシーに分乗して別々の場所に行ってしまう、大いに焦りました。多分、携帯電話に頼り、しっかり確認せずに過ごす生活に慣れているせいでしょう。タイの携帯電話が使えていたなら、と思ったものでした。



(ホールインワンの達成後バンザイ)

< 歓喜の私は、右から2番目です! >

またチェンマイで両替した米ドルが汚れていて、受取りを拒否されたり(ホテルやゴルフ場はドル払い)、レートが低くなったりして慌てました。行く予定のある方は綺麗なお金を用意されるといいでしょう。

ハプニングが多かった旅でしたが、その中でも一番はゴルフ初心者私のホールインワンでした。もう二度とないであろうに、池越えでき安心してしまい、私自身はボールがカップインするところを見ていませんでした。仲間たちの歓声で知ったのです。未だ実感が湧かず残念でなりません。

地元の人たちがこれからのミャンマーは確実に変わる、2～3年で大きく進歩する、と目を輝かせていました。その息吹が感じられるまさにその時期に訪ねることができ、しかもホールインワンのおまけまで付いて忘れられない旅となりました。

ゴルフコンペ1月の結果

第106回CLLゴルフコンペは、1月27日ランナーゴルフ場で開催された。参加者合計は、30名(ゲスト4名)。成績は、下記の通り。次回の幹事は、樋口純一さん・大澤米子さん。

順位	名前	OUT	IN	GS	HC	NET
優勝	樋口 純一	47	50	97	31	66
準優勝	高久 敏昭	48	45	93	22	71
3位	松本 邦雄	50	42	92	19	73



1月自然を楽しむ会 (ワングウの滝とパヤオ湖)

1月28日(土)、自然を楽しむ会はチェンマイの北東にある森と谷に囲まれた自然豊かなパヤオ県に出かけました。北部タイに於いて900年を超える歴史を持つ古い町でランナー王国の属国になるまでは、中国やラオスと文化・貿易の交流をもった王国でした。

今回訪れたワングウの滝は石灰岩の滝であり、昼食をしたパヤオ湖は北タイで一番大きな三日月の形をした淡水湖で、漁業で生計をたてている人が多く住んでいます。昼食後、パヤオ湖のほりにあるシーコムカム寺院とパヤオ文化展示館を見学しました。文化展示館では、見習いガイドの10歳の男の子が案内してくれましたが、ハキハキした説明に参加された皆さんは感心しておりました。(広報部)



新入会員紹介



井上 清さん

神奈川県 横浜市出身

旅行する事が大好きです。こちらに来て、バイクを購入して地図を片手に色々見学しています。これからは、スコタイなどバイクを利用して、泊まりがけで旅してみようと考えています。



寺地 美恵子さん

大阪府 豊中市出身

この度、CLL 会員になりましたので宜しくお願い致します。私は、八年程前から年間4ヶ月位、寒い冬の時期をチェンマイで過ごしていましたが長く住む決意をしました。80歳近い年齢で一人暮らしです。趣味は読書とお料理です。



大屋 英則さん

兵庫県 神戸市出身

チェンマイに来て約2年になります。1941年生まれ、趣味は旅行とゴルフです。いつも、ゴルフはハーフしか回りませんが、これからは18ホールのコンペに参加したいと思います。よろしく願い致します。



石田 豊美さん

兵庫県 神戸市出身

神戸生まれの神戸育ちです。昨年12月に参りました。一年間は、頑張りたいと思っています。趣味はトレッキング、卓球です。まだ、よく分かりませんので、どんな小さな事も参考にさせていただきます。よろしく願い致します。

2012年2月度CLL行事予定表

広報会議	毎週月曜日	13時30分～15時	CLLクラブ事務所
英会話同好会	毎週月・火曜日	月 10時～11時30分 火 15時～16時30分	CLLクラブ事務所
手芸同好会	毎週火曜日	13時～15時	CLLクラブ事務所
囲碁同好会	第1・第3木曜日	13時～17時	CLLクラブ事務所
ダンス同好会	休部		
コントラクトブリッジ同好会	毎週木曜日	10時～12時	CLLクラブ事務所
タイ語同好会	毎週水曜日	中級 13時00分～14時30分 初級 14時30分～15時30分	CLLクラブ事務所
フォト同好会	第2・第4金曜日	10時～12時	CLLクラブ事務所
ゴルフコンペ月例会	24日(金)	6時15分集合 6時45分スタート	ランナーゴルフ場
自然を楽しむ会	19日(日)	ロータス駐車場7時45分集合 8時出発	メーリム・サンファンプロジェクト
世話人会	4日(土)・18日(土)	10時～11時30分	CLLクラブ事務所
定例会	4日(土)・18日(土)	13時30分～15時30分	オーキッドホテル 2F
カラオケ同好会	第1・第3土曜日	例会終了後	ファミカラPMS
コーラス同好会	11日(土)・25日(土)	10時～12時	レストラン「プルーン」

＜お知らせ＞ 今年よりタイ語・囲碁同好会の曜日に変更になりました。

チェンマイ日本国総領事館 053-203367
 休日・夜間の緊急連絡先 081-846-8265
 081-809-6074
 チェンマイ入国管理局 053-277510
 警察署 191
 ツーリストポリス 1155
 火事・消防署 199
 メータータクシー053-279291

チェンマイ大学医療サービスセンター
 『シーパット病棟』 コールセンター053-946900～1
 岸田栄子さん (コールセンター経由で呼び出し)

電話番号便利帳

ランナー総合病院 053-999777
 チェンマイラム病院 053-920300
 杉本あきらさん 053-920300
 青木裕子さん 同上
 ゲオさん(タイ人の日本語通訳) 同上
 ラジャヴェーチェンマイ総合病院 053-801999
 江藤尚美さん 同上 内線777
 (緊急時089-755-2820)
 米山千恵子さん 同上
 勝山桃子さん 〃
 (お三人とも月～金は9時～17時
 土曜日は9時～12時)

トピックス

＜チェンマイ星空の夕べ＞

1月27日(金)、チェンマイ大学(日本研究センター)主催のイベントとして、星に関する日タイの伝説の解説と天体観測の体験が行われました。

地元チェンマイのタイ人の人達と共に参加した皆さんは、チョップリ寒い、澄み切った夜空に輝く星々に農業の時期や航海の道しるべとしての思いをはせながら星空を楽しみました。(広報部)



編集後記

- ・私達2011年度の広報部員も、この号で任務を終了となります。東日本大震災特集や会報発行100号(会報11月号で達成)と波乱に満ちた1年でもありました。しかし、会員の皆さまのご支援・ご協力により新広報部員に無事「タスキ」を渡すことができます。「兎から 龍が眼を遣る 一里塚」大変ありがとうございました。
- ・次号から新しい顔ぶれでの編集となります。「会員による広報紙」として紙面の充実を図る新体制にご期待下さい。

(石井・近藤(榮)・筒井)

